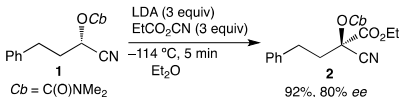


# 30E02-am09S

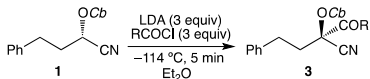
キラル  $\alpha$ -ニトリルカルバニオンの求電子剤による捕捉 (2)

○竹川 友<sup>1</sup>, 佐々木 道子<sup>1</sup>, 武田 敬<sup>1</sup> (<sup>1</sup>広島大院医歯薬)

【目的】  $\alpha$ -ニトリルカルバニオンは発生が容易であり, また求電子剤に対する反応性が高いため, 炭素-炭素結合形成反応に汎用されている. これを不斉反応に展開することは, 光学活性な  $\alpha$ -ニトリルカルバニオンを用いれば原理的には可能だが, 発生とともにケテンイミネート構造をとり平面化するため実際には不可能と考えられてきた. しかし最近我々はカルバモイル基を有するシアノヒドリン誘導体 **1** をシアノギ酸エチル存在下, LDA で処理すると最大 80% ee でエステル化体 **2** が得られることを見出した. そこで本反応の適用範囲の拡大を目的とし, 種々の求電子剤の検討を行った.



【実験・結果】 求電子剤として酸クロライドを用いた場合に, 中程度の不斉収率でアシル化体得られた. また, 酸クロライドの立体的および電子的性質が不斉収率に影響を与えることが明らかになった. 現在, 分子内反応を含めた他の求電子剤の検討を行なっている.



R	<b>3</b>	
	yield (%)	ee (%)
Ph	90	67
<i>n</i> -Pr	84	62
<i>i</i> -Pr	85	48
<i>t</i> -Bu	87	21